

地域おこし協力隊プログラム（農業定住モデル）

【目的】

地域おこし協力隊の制度を活用し、農業に根ざした定住と、空き家・耕作放棄地など地域資源の利活用を通じて、

地域社会に持続的な価値をもたらす人材を育成します。単なる人材移住に留まらず、地域課題の解決と活性化、さらには地域における起業や雇用の創出を目指します。

【1年目】農家になる年（基盤づくり）

初年度は地域の農家のもとで、年間を通じた実践的な農業研修を受け、農業従事者としての経験を積みます。※農地は農家にならないと所有できません。

1日6時間の農業作業に加え、農業委員会の認定取得を目指します。また、1日2時間は高齢者の見守り活動に従事し、

地域住民と交流を深めるとともに、信頼関係を構築します。並行して、空き家や耕作放棄地の調査活動も実施し、地域資源の現状把握と利活用の可能性を探ります。

【2年目】定住の準備

2年目は、引き続き農業（6時間）と見守り活動（2時間）を継続しながら、

ふるさと納税制度を活用して農地や空き家の取得を進めます。

地域に定住するための住居や農業拠点としての整備も本格化し、農家としての自立に向けた基盤を固めます。この年は、より主体的に農業や地域との関わりを深め、地域内での役割を確立していく段階となります。

【3年目】自立農業と地域連携

3年目は自らの農地での営農を本格的に開始し作物の生産から販売までを一貫して行います。

また、6次産業化にも挑戦し、地域特産品の加工や商品開発などにも取り組みます。

並行して空き家を補助金で改修し、居住空間や交流拠点として活用します。

これまでに築いた地域との信頼関係をもとに、後輩協力隊員の育成や、地元農家との連携強化にも貢献します。

【4年目（卒業後）】起業と定着

協力隊の任期を終えた4年目は、地域に根付いた起業をスタートするフェーズです。

100万円の起業補助金などを活用し、6次産業化の経験を活かした新商品開発や、地域課題解決型の事業を展開します。

これまでのネットワークを活かし、地元農家との協働や高齢者支援の継続、後輩へのアドバイスを行いながら、地域社会の一員として自立し、定住・事業の継続を図ります。